

# 西光寺だより

第三十七号 平成二五年 九月一日発行

今年の夏は、猛暑に悩まされましたが、九月に入り少しづつ涼しさを感じられるようになりました。厳しい暑さの中では気付かなかったことですが、やはり秋は確実に訪れているのでしようね。朝夕の風の涼しさにはつとさせられることがあります。

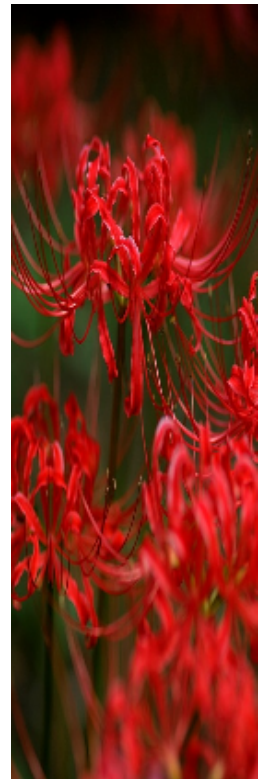
ちようどお彼岸の頃に咲く彼岸花も、みるみるうちに花を咲かせ、その燃え上がるような真つ赤な美しさで秋の訪れを感じさせてくれます。いつの間に咲いたかと思うほどの勢いで田んぼの畦や川の土手などに鮮やかに咲き乱れます。あつという間に枯れてしまう花ですが、そのなんともいえない妖艶な赤は、印象深く目に映ります。

しかし、この彼岸花もしつかり一年というサイクルをかけて開くべき時期に花開いているのです。

彼岸花は、秋雨が降ってやがてお彼岸という頃になると芽を出し、一日に十センチ近くも茎がのびて、瞬く間に五十センチ位になり、あの真つ赤な花を咲かせます。そして一週間ほどで花も茎も枯れてしまい、今度は球根から緑の葉っぱがすくすくと伸びてくるのです。冬になつて周りの植物が枯れても、たわなにしげった葉っぱのまま冬を越し、春まで光合成をして球根に栄養をため込みます。そして、他の植物たちが葉を茂らせ太陽の光をいっぱい浴びる夏には、葉を枯らし休眠に入り、再び秋雨が降って花開くその季節を待つのです。普通の草花とは逆のサイクルで花開くための準備をしているのです。

やはり、彼岸花もいきなり咲くのではなく、自分が花開くためにするべきことを日々積み重ねているのですね。

わたくしたちがするべきことは何でしょうか。それぞれに答えは違ふと思います。それでもなお、それぞれの自分を咲かせ続けるために訪れてくれる毎日を大切に積み重ねてまいりましょう。



## ◆九・十月の行事◆

九月

在家報恩講

\*毎月の月参りの日に在家報恩講としてお参りさせて頂きます。

九月 十二日(木)

大谷本廟墓参(みのり講・ほづみ講)

午後二時 大谷本廟お茶所集合

九月 二十一日(土)

仏教婦人会報恩講

午後一時

西光寺本堂

九月 二十八日(土)

秋季永代経法要

午後二時・七時

西光寺本堂

◎御法話

本願寺派布教使 北畠 晃融 師

## ●今月のことば●

「花のたましい」

金子みすず

ちったお花のたましいは、  
みほとけさまの花ぞのに  
ひとつのこらずうまれるの。  
だって、お花はやさしくて、  
おてんとさまがよぶときに  
ぽつとひらいて、ほほえんで  
ちようちよにあまいみつをやり、  
人になにおいをみなくれて、  
風がおいでとよぶときに、  
やはりすなおについてゆき、  
なきがらさえも、ままごとの  
ごはんになつてくれるから。

皆様もご存じの金子みすずさんの、詩集の中の一編です。  
彼女ならではの優しい眼差しが感じられる詩です。

同時に、わたくしたちの生き方を考えさせられる詩でもあるように思います。

花は咲くときを迎えて咲き、生き物に栄養を与え喜ばせ、  
散つてもなお他のものの役に立っている。互いに喜び共存し  
合える世界。

さて、わたくしたち人間はいま、どのような世界で生きて  
いるのでしょうか・・・花に見習うべきところが多そうです。

## ◆先月の報告◆

八月十五日（木）西光寺本堂にて孟蘭盆会法要をお勤めさせていただきました。二十三名の方々とともに先に亡くなられた方々を偲ばせて頂きながら、そして今あるいのちの尊さを感じながらのお勤めでございました。皆様で阿弥陀経のお勤めをし、お焼香をさせていただきました。

法要の際、あまり詳しく孟蘭盆会のことに関してお話しすることができませんでしたので、この西光寺だよりを通して少し述べさせていただきます。よろしくお願いいたします。

皆さんが知っておられる「お盆」とは、正しくは「孟蘭盆会」とい  
い、また浄土真宗では「歓喜会」ともいいます。それは、得なければ  
ならない往生を必ず得ることができると、往生に先立ち前もって喜ぶ  
という意味でございます。お釈迦様のお説きになった「孟蘭盆経」と  
いう教えがもととなっております。

お釈迦様のお弟子様であった目連尊者が、亡くなった母を餓鬼道と  
いう苦しみの世界から救い出すお話が説かれています。そのお話を通  
して、他の誰かではなく、私自身が仏法を聴き、浄土へ生まれる真実  
の教えに目覚めていくことが浄土真宗のお盆の意味なのであります。

そして、尊い仏さまとなられた亡き人を偲ぶとともに、故人に導か  
れて我々の日常の生き方を省み、命の尊さ・大切さを考える期間でも  
あります。今年も皆様とご一緒にお参りさせていただき、同じ時間を  
過ごせたことに改めてご縁の深さを味わわせていただいた事でござ  
います。ようこそのお参りでございました。

合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>